

初台リハビリテーション病院

病院の外壁リニューアル中です!

昨年8月から実施しておりました外壁改修工事もいよいよ大詰めとなっています。開院から15年経過し、タイルの汚れや剥がれが目立つようになっていました。今回の改修工事では建築設備としての耐久性を維持するため打診検査を実施し浮いてしまっているタイルの貼り替えと補修、外壁やベランダの防水加工、目地の補修、洗浄作業などが実施されています。皆さまには大変ご迷惑をお掛け致しましたが、1月中に工事が完了致しますので綺麗になった外観をぜひご覧ください。



船橋市立リハビリテーション病院

四季折々

昨年イベントの開催や、院内の飾り物を変えることで入院患者さまにも季節を感じていただくことができました。また、凧と門松を飾りお正月の雰囲気を楽しんでいただいています。年末には餅つき大会を行いたくさんの患者さまと楽しい時を過ごすことができました。



今後も様々なイベントを実施し、患者さまが季節感を感じることでできる雰囲気作りに取り組んでまいります。

船橋市リハビリセンター

第7回船橋市地域リハビリテーション市民公開講座 開催

11月26日(日)船橋市保健福祉センターにて第7回船橋市地域リハビリテーション市民公開講座が開催されました。講師として石川理事長が「リハビリテーション医療のこれまでとこれから」というテーマで講演しました。約100名程の方が参加され、「リハビリの歴史から現在に至るまでを分かりやすく話していただいて大変勉強になった」「ケアマネとして今日の講演内容を利用者さんに伝えていきたいと思いました」との声が多数寄せられ、大盛況でした。



在宅総合ケアセンター元浅草

患者会「たいとう心身会」の羽田空港ツアーが行なわれました

元浅草センターの患者会「たいとう心身会」では12月3日、利用者さま・ご家族・職員総勢46名が参加し貸切バスで羽田ツアーを行いました。晴天に恵まれ展望デッキから青空を見上げ飛行機の離着陸を見学し、昼食や買い物も楽しみました。参加者の方より、「また海外に行きたくなった」、「病気になってから初めて病院以外の場所に家族で外出できて良かった」等の感想をいただきました。センターでは引き続き患者会の活動を支援してまいります。



在宅総合ケアセンター成城

福祉用具勉強会を開催

11月24日、区西南部地域リハ支援事業の一環としてケアマネジャー、介護職を対象とした福祉用具の勉強会が開催されました。せたがや福祉用具連絡会の指導のもと「福祉用具のコツをつかむ」をテーマに車いす、歩行補助具、起居移乗の3つのブースに分けて実演、体験、意見交換を行いました。当日は20名の方にご参加いただき、「教えて下さる方が非常に熱心でやる気が湧く」、「今後の業務に活かせる」など多数のご意見が寄せられました。



輝生会2018年の展望と指針



理事長 石川 誠

2018年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

医療法人輝生会は、2002年の初台リハビリテーション病院の開設に始まり、在宅総合ケアセンター元浅草、在宅総合ケアセンター成城、船橋市立リハビリテーション病院、2014年には船橋市リハビリセンターの運営を開始し、5拠点で事業展開しています。事業内容を簡単に説明すれば、「寝たきりにしない医療サービスの提供」です。

具体的には、第1に急性期の病院から回復期リハビリテーションを必要とする患者さまを可能な限り早く受け入れ、入院による集中的・総合的リハビリテーションを提供することにより、在宅復帰を可能とすること。第2に在宅復帰後は、通院・通所・訪問・短期入院などによるリハビリテーションを中心とした在宅ケアサービスを提供することにより、機能障害や日常生活活動の維

持・向上をはかり、安心・安全な在宅生活が継続できるよう支援すること、第3に地域包括ケア体制の充実に向けた支援活動を各拠点で展開することを使命としています。この使命を全うするために、現在は1200名を超す職員を擁する法人となりました。医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、栄養士、調理師、医療事務等の専門職が、職種を超えたチームアプローチを徹底して実践することを旨としています。その理念の中核は「患者さまの尊厳の保持」です。この理念を盤石なものとするため、教育研修局(部)の活動には特に力を入れてまいりました。

法人発足後16年が経過し、多くの方々に支えられ、なんとか事業を継続することができましたことを、まずは心から御礼申し上げます。本年度は法人幹部の若返りにより、新たな飛躍の年として、更なるサービスの質の向上を目指し、なお一層努力いたしますので何卒よろしくお願ひ申し上げる次第です。



教育研修局の
展望と指針
教育研修局長
水間正澄

新年明けましておめでとうございます。昨年は例年にも増して当法人が多方面から注目された一年であったと思います。法人のかかげる理念は医療のあるべき姿として伝えられたのではないのでしょうか。教育研修局でも輝生会の理念のさらなる浸透にむけて取り組んでまいりましたが、職員ひとりひとりがこの理念を大切に継承してほしいと願っています。

本年は輝生会事業の3本柱のうちの「地域リハ(地域包括ケア)の推進」への取り組みが大きな課題となります。生活期のリハビリテーションを充実させるためには、それを支える人材を育成することも重要となります。難しい課題ではありますが、一歩先を見据えて皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っております。

新しい年も皆さまにとって素晴らしい年でありますよう祈念いたします。



リハケア局の
展望と指針
リハケア局長
小林由紀子

新年明けましておめでとうございます。年を重ねると月日の経過が驚くほど早く、今年も時の流れの速さは変わらないでしょうが、毎日を大切に過ごす決意であります。新年にあたり、皆さまにおかれまして、今年が心身共に健やかに、そして感動や成長の実りの多い年になりますよう心からエールをお送りします。

今年の干支は戌年です。戌年の特徴は正義感が強く、協調性があり、まじめな働き者…。そして忠誠心が強く、人に対して威張らない…とのこと。これを知った時、輝生会が目指す人物像に似ていると感じ、嬉しくなりました。どれもチームアプローチの実践に大切にしたい特徴です。時々思い出し、「そうそう今年はコレ!」と意識されることで今年(戌年)を大切に過ごせると思います。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



事務局の
展望と指針
事務局長
森本 榮

新年明けましておめでとうございます。本年の干支は戌年です。戌と言えば私はハチ公物語、南極物語など主人を忘れずに粘り強く待ち続ける姿を思い浮かべます。リハビリテーション医療では、患者さまの残存能力を最大限発揮していただくために時間をかけ、粘り強く見守る姿勢が重要になります。手を出して介助するのは簡単で、時間も短く済みますがそれでは自立につながりません。輝生会では間接業務は電子カルテの導入による効率化で時間の短縮化を図り、直接業務の看護・介護のケアやPT、OT、STのリハビリ練習の場面での時間を確保し、患者さまの動きに合わせ粘り強く見守る姿勢を実践しています。戌年に相応しく、輝生会の職員一同が患者さまに誠実に粘り(辛抱)強く「自立支援のための見守る姿勢」を貫き皆さまから信頼される1年になれば幸いです。

輝生会の
基本理念と方針

- 「人間の尊厳」の保持
- 「主体性・自己決定権」の尊重

- 「地域リハビリテーション」の推進
- 「ノーマライゼーション」の実現

■ 「情報」の開示

輝生会における
患者さまの権利

- 人権を尊重される権利
- 最善の医療を受ける権利
- 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利

- 自らの意思で選択・決定する権利
- プライバシーの保護を求める権利

輝生会 栄養部の紹介

船橋

お節料理の「節(せち)」とは「節日(せちにち)」のことをさします。節日のための料理です。お正月らしく晴れの日を感じて頂けるよう、縁起の良い食材を盛り込みました。海老(長寿)、昆布巻き(喜ぶ)、紅白なます(平和を願う)などを表現し、味だけでなく見た目でも楽しめる料理を心を込めて作りしました。

また、飲み込みが難しい患者さまのお料理は、使える食材が限られてしまいますが、普段とは一味違う食材を取り入れ、普通食に近づけるよう見た目になるよう工夫しました。安全な食形態でありながら、味・見た目、全てにおいて楽しんで頂けるよう心を込めて作りしました。

(料理長 東海林勇一、チームマネジャー 佐藤周子)



初春の御献立(嚥下食)



初春の御献立(普通食)

成城

新年を当院で迎える皆さまに、お正月を感じて頂けるよう祝い膳をご用意しました。献立作成では、お正月らしさはもちろん、安全・食べ易さにも配慮しました。例えば、松前漬は、歯ごたえのある松前昆布の代わりにもずくを用い、ひと手間加え軟らかく仕上げました。お雑煮には、安全に配慮した手作りのお餅を入れています。これは、お米・白玉粉を配合したもので、家庭にある材料で作れる事、お餅の風味を残す事を意識しました。このお餅は、もちつき大会で提供するお汁粉にも用いています。今年も、皆さまの心と身体が元気になるお手伝いができるように、栄養部一丸となり美味しいお料理を提供していきたいと思ひます。(副料理長 鈴木久生、チームマネジャー 新谷恵子)

迎春御膳(朝食)



御節御膳(昼食)

船橋

元旦 昼御献立

御雑煮(関東風)

祝餅・鶏肉・松茸・大根・人参・筍・小松菜・柚子

御節

【重】

末広海老 海老を開いて蒸し、扇形にしました

昆布巻 日高産昆布を干瓢で巻き煮上げました

金柑甘露煮 金柑を甘く煮上げました

身巻き加寿の子 数の子を昆布と平目で巻きました

鮭博多押し スーモークサーモンと 黄身寿司を量ねました

【式の重】

紅白羽子板 羽子板の形の人参大根を なますに仕上げました

鳥松風焼き 鳥ひき肉を調味し、

表面にけしの実をのせ焼き上げました 冬の寒さに耐える松を表した料理です

黒豆蜜煮 丹波産の黒豆を使用し煮上げました

クリームチーズ西京漬け クリームチーズを

西京味噌に漬け込みました

卵カステラ

卵と魚のすり身を混ぜて焼きました

鮭製造り

鮭・大根・人参・大葉・山葵・赤目



回復期リハ病棟協会 回復期リハ看護師・セラピストマネジャー コース紹介

文責:回復期リハビリテーション病棟協会 事務局 池淵美香

回復期リハ病棟は、2000年に制度化されて以来17年目を迎え、全国で80000床を超える病床数となりました。このような状況の中、ADL能力の向上による寝たきり防止と、在宅復帰を目的とした、多職種によるチームアプローチを特徴とする回復期リハ病棟においては、専門的な知識・技術・態度を備えたリーダーとなる看護師・セラピストの育成及び認定者の一層の増加が求められています。これを受け回復期リハ病棟の8割以上が加入する当会では、会員施設の要望に応え、協会独自の認定研修を開催しています。回復期リハ看護師認定コースは2007年より、セラピストマネジャーコースは2011年より開始し、今年度で回復期リハ看護師認定コース認定者1109名、セラピストマネジャー認定者923名となりました。



認定授与式

それぞれの内容は回復期リハ看護師認定コースでは、①回復期リハ看護の基礎 ②疾患・病態生理 ③対象の理解と評価 ④専門的看護 ⑤看護共通 ⑥事例検討の6領域で構成されています。セラピストマネジャーコースでは、①入院患者およびその家族に対する質の高いリハサービスの提供 ②人的・環境的リスクに関する調整・管理 ③多職種協働 ④病棟運営に寄与し組織管理を実践できるPT・OT・STの育成を目指し、回復期リハ病棟の概論・障害学・多職種協働論・管理学で内容を構成しています。両コースともに、主旨に賛同して下さるご高名な講師の方々をお招きしています。リハビリテーションマインドについての講義もあり、原点に立ち返り勇気づけられると受講者の好評を頂いています。18日間と長期間の受講となり業務との両立で出席が大変ですが、受講者は「回復期リハ看護師・セラピストの質の向上」という共通の目標を持ち、支えあい、励ましあい、刺激しあって受講しています。



受講風景

【受講生の声】 研修会は、セラピストのマネジメントについて体系的に学ぶことができる貴重な機会でした。また、リハビリテーションに係る広い分野について、その分野のトップの方々のお話が聞けたことで、幅広い知識だけでなく、仕事への姿勢・気持ちの持ちようも知り得ることができ、とても良い学びとなりました。今回の学びを今後活かしていきたいと思ひます。



初台:OT部門チーフ 尾下真志

輝生会クロスカントリーのご紹介

毎年1月に有志によるクロスカントリーツアーが開催されます。石川理事長をリーダーに、患者さまやご家族の皆さまとご一緒に、輝生会や輝生会と親しい病院のスタッフ、さらに業者の方も参加いただく有志によるツアーです。昨年は約100名弱の方が参加されて、向かった先は菅平高原。夏はラグビーが有名ですが、冬は雪質が良いことからクロスカントリーやアルペンスキーが楽しめます。ツアープログラムはお楽しみが盛りたくさん。日中のクロスカントリーはもちろん、最大のお楽しみは、2日目のお昼です。輝生会栄養部の総料理長の腕が冴えわたる恒例のマグロ丼。マグロまるまる一本を解体するという大がかりなもので、脂ののったマグロでお腹いっぱいになります。さらに、夕食後に音楽会やトークショーのある年もありますし、ツアー名物の全員参加のクロスカントリータイムレースの表彰式や1月生まれ



参加者をお祝いするお誕生日会などは毎年企画されて、笑顔があふれる時間が流れます。

毎年の帰路のバスでは、参加された元患者さまたちからは「本当に楽しかった。感無量です。ありがとう!」と喜びの挨拶があり、スタッフも感動をたくさんいただきます。「来年もまたお会いしましょう!」と笑顔で解散する輝生会クロスカントリーツアー。2018年も1月19日~21日の3日間、菅平にて開催が予定されています。

